

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス くれよんハウス		
○保護者評価実施期間	R7年 9月 16日		R7年 10月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70 (回答者数)	26
○従業者評価実施期間	R7年 10月 1日		R7年 10月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	登園や降所時にお話をこまめに行うことで日々の悩み等に寄り添うことができている。また、必要に応じて個別相談の時間を取り、必要な情報提供や支援を行っている	活動の内容やお子様の様子を保護者にお伝えし、個別にお話する時間を設けることで、保護者の方が安心して利用できるようにしている。また、お子様の現状把握へと繋げニーズに答えながらよりよい支援へと繋げている	利用時の様子や保護者とお話を、翌日のミーティングにて全職員に周知し、より良い支援に繋げている
2	多職種の職員が連携しながら療育を行うことで、様々な視点を持ちながら、1人1人のニーズに合った、支援を行うことができる	ミーティングを行うことで、当日の課題の気を付けるべき点や取り組む課題を話し合っている。また、前日の振り返りを行うことで、関われなかった子どもの情報を共有することで、お子様の現状把握に努め、次の利用日により良い支援が行えるようにしている	研修の実施を行ったり、法人内の事業所同士で課題を交換する等、よりよい支援に向けての交換会を実施したりしている
3	1/週～5/週、保護者やお子様のニーズに合わせて通園が可能 制作やクッキング、ルール性のある遊びなど、設定された活動に30～40分ほどしっかり取り組むことで、さまざまな課題を楽しみながら経験することができる	友だちと相談・協力する等の課題を通しコミュニケーションスキルの向上へと繋げている。微細・粗大運動課題を取り入れ盛り込むなど運動に視点をあてた課題を取り入れ、基本的な運動能力や集中力の向上へと繋げている	小集団の中でも、個別的なフォローが行えるように人員配置を行っている。 職員が仲介したり、言葉の提案を行うことで、お互いの状況や相手の思いなどを知る経験へと繋げたり、思いを伝える経験を積み重ねていけるように配慮している

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	粗大運動を十分に行うスペースがないこと	新しく広い空間を用意できていない 法人内で広いスペースがある場所での利用(訓練時間が同じこと)が難しい	法人内で広いスペースがある部屋を時間分けて有効に活用できるように話し合いを行う また、郊外にでかける企画を設けることで、粗大運動を取り入れていく
2	保護者同士との交流や地域住民、放課後児童クラブや児童館など外部の子どもとの交流がない	個人情報の観点から交流することが難しいため	各家庭のご意向に配慮しながら、公共施設等を使用したイベントの企画により、外部の子どもとの関わりをもつ機会が持てるように検討する。個人情報の観点から、地域交流が難しい場合は、利用児のご家族同士の交流から始めていけるよう検討していく。
3			